

広報 えびな



市の木つげ



市の花さつき

◆ 大字紹介 ◆

昔、神官たちの
住居がたくさんあ
ったことに由来する。

発行・海老名市役所・海老名市国分155/編集・秘書広報課/電話・31-2111(代) / 〒243-04

毎月1日・15日発行



二枚の写真は、同じ地点から海老名駅前の地方道横浜厚木線と大谷線の交差点を写したものです。上は現在で、下は昭和三十年に撮影されました。都市整備が進んでいることがはっきりわかります。下の写真は、大谷の赤井光夫氏提供。

有馬村
海老名町

合併いま30歳に

昭和三十年七月二十日、有馬村と海老名町が合併しました。今年で合併三十周年を迎えます。合併の背景や理由などを紹介します。

合併の背景と理由

合併の背景には、昭和二十八年に公布された「町村合併促進法」がありました。この法律で全国の市町村は、整理統廃され三分の一に減少しました。

有馬村と海老名町との合併理由は両町村が地形、産業、風俗、習慣や生活環境など古来から密接で同一環境にあり、住民の主な生業も農業を第一としていました。同一環境にある二町村が合併して一体化することは、将来の発展が約束され、住民の福祉向上にもつながる、との理由で合併しました。

町名の由来

新町名を「海老名」とした理由は、歴史的に最も由緒ある地域名と他の合併例でも、人口の多数を占める方の名称を用いるのが多い、という理由から付けられました。

「海老名」という名の由来は、はっきりした定説はありませんが、河原口にある有馬神社の縁起には、海老名は海老がたくさんであったと書いてありま

思い出を語る

合併前の海老名町長をつとめた井上近次さん(上今泉、93歳)は「基本的には、ほとんど意見の一致があった。」



井上近次さん

両町村の概況

〈海老名町〉

海老名町は合併時の人口一万余六百六十八、面積十四・七五平方のおおむね水田、畑作地帯。経済的には、有業人口の五〇％が農業、製造業(〇％)がこれに次ぐ。人口は標準規模であるが、人口密度の割合は高く面積において減少

〈有馬村〉

有馬村は合併時の人口五千三百七十七人、面積十・九五平方の水田、畑作地帯。経済的には、有業人口の七五％が農業に従事。人口、面積ともに小規模村。



小沢庫吉さん

致をみました。一番困難だったのは、新町名をどのように付けるかでした」と語っています。井上町長は、各地区で座談会を開いて住民の声を聴き反映させてきました。この地区座談会は連夜、九日間わたって行われた、と記録に残されています。

有馬村議会副議長であった小沢庫吉さん(89歳)は「海老名町と合併するまでに曲折はありましたが、合併相手とどこにするかが問題となりました。三十年を振り返ってみて、有馬村だけで独立したら、ある程度の発展はできていても、これほどの発展はなかったのでは。両町村にとって、合併は実のあるものになったと思います」と語っています。

左藤市長は「当時の資料や先人の方々のご活躍のお話を伺うとき、その辛苦に対し頭のさがる思いではない。当時の計画が三十年後の現在、実を結んでいる。市政にたすきさるものとして、二十一年後、三十年後に悔いの残らぬ町づくりをしていきたい」と語っています。

であった。

町長 井上近次
議長 三浦部武義

村長 武井職南
議長 浜田伊与治

さわやかテレホン

声の市役所だより

お話 テレホン

海老名むかしむかし

☎33・1212

7月22日から9月1日までの夏休みの期間は「海老名もの知りシリーズ」を行います。子供たちに聞かせてください。

海老名に残されているたくさんの昔ばなしが電話で聞けます。

☎33・3838

青年期の町えびなの 明日を担います



小島 正弘さん(教育)

豊かな自然 が思い出に

小島 正弘さん

町村台に生まれ、海老名市立大谷小島正弘さん(現立派高等学校)横浜市長(現教員)30歳に、少年時代の海老名の思い出を語りました。

家の周囲は畑ばかりで人家は全くありませんでした。数ある史跡地、自然林、農作物の山を眺めながら、自然の恵みを感じた思い出が、今でも心に残っています。現在の海老名から想像すると、海老名市は、海老名駅前の交差点、各種企業の進出、小島さんは海老名市の発展をともに歩んできました。昔の海老名は、昔のまなわらわらとした自然の恵みが、今も残っています。これからは、よりいっそうの自然保護を、市では私たち市民の新しい感覚を取り入れてほしい。最後に語ってくれました。



57年・著名市民第1号に選出された小島正弘さん

夢は水族館 の飼育員!

新村 敏君



市民五万人の誕生は、杉久保に住む新村君(13歳)の父、新村さんと母三津枝さんの長男として昭和四十七年七月二十八日生まれました。姉の佳澄さん(14歳)と妹の佳子(12歳)がいます。出生時、体重三千二百グラム、身長は、現在、体重四十五キログラム、身長は、現在、身長四十五センチメートルです。

長百五十センチと成長、幼いころは病弱でしたが、小学四年生のときから剣道を習い、現在は大谷小学校でバスケット部に所属し、活躍しています。そのために、母はいつも七時起きで、毎朝、お弁当を準備して、学校まで送ります。新村君は、将来は人に迷惑をかけるような職業ではなく、健康で、役に立つ職業に就きたいと考えています。父は、新村君の夢を応援しています。父は、新村君の夢を応援しています。



60年・新図書館(右)と教育センター(左)が完成



58年・海老名中央公園オープン



有馬村役場の上棟式 宇田 浩さんが所有

昭和二十七年十月に行われた有馬村役場の上棟式の写真です。写真の所有者である宇田浩さん(70歳)は、この写真が、有馬村役場の上棟式の際に撮影されたもので、現在は、有馬村役場の資料室に保管されています。宇田さんは、この写真が、有馬村役場の歴史を伝える貴重な資料であると述べています。

8月の青空市

第3日曜日を除く
毎週日曜日、市役所で
午前7時頃から
8月10日(土)、11日(日)はふるさとまつり(小田急グラウンド)の中で開催。ただし、11日の早朝の青空市は休み。
今月の主な出品はスイカ、サツマイモ、ピーマン、長ネギ、トウモロコシ、カボチャ、ナス、ジャガイモ、玉ネギ、枝豆、トマト、キュウリ、鶏卵、鉢物など。季節物がありますので出品に多少の変更があります。
8月のサービスデーは、25日。当日飲物の無料サービスをします。問い合わせは農産課(内521)。



写真が語る30年



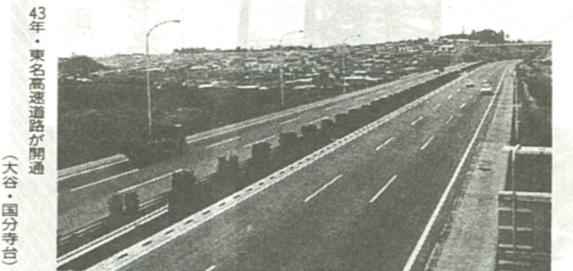
30年・社家駅近くに汽車が見える(現在の地方道相模原茅ヶ崎線から社家駅をのぞく)



41年・現庁舎が完成



30年・合併後の初選挙で選出された議員



43年・東名高速道路が開通(大谷・国分寺台)



48年・海老名駅舎の移転のため建設が進む海老名駅周辺(上)。下は現在の海老名駅周辺の風景



46年・武藤文雄市長が市制宣言

30年の歩み

- 31・4・1 有馬小学校(旧海老名小学校向原口分校)独立。
- 36・4・20 有馬簡易水道が中河内、中野、今里、上河内、杉久保の一部と社家全域で給水開始。
- 38・12・28 高座(三町)清掃施設組合設立。
- 39・4・1 柏ヶ谷小独立開校。
- 40・1 総合福祉センター完成。
- 41・11・5 現庁舎落成式。
- 42・6・16 中央公民館落成。
- 43・4・25 東名高速道路開通。
- 44・4・1 大谷小開校。
- 46・11・1 市制施行。県下で十六番目の市となる。
- 47・4・1 上里小・中新田小が開校。
- 48・4・1 門原小開校。
- 48・5・1 (旧茅ヶ崎町)誕生。
- 48・12・21 新海老名駅業務開始。
- 49・6・6 海西中開校。
- 49・7・1 住居表示実施。大谷の一部が国分寺台一丁目となる。
- 49・8・2 初めて総合防災訓練を上今泉で実施。
- 50・1・15 県立海老名青少年会館開館。
- 50・4・5 東柏ヶ谷小開校。

市制相談室	市民相談室	社会福祉協議会	その他
市役所一階案内係 (33・400直通)	市役所一階案内係 (33・400直通)	市立総合福祉会館内 (31・411)	市役所一階案内係 (33・400直通)
就学指導室	市民相談室	社会福祉協議会	市民相談室
教育センター	市民相談室	社会福祉協議会	市民相談室
指導室	市民相談室	社会福祉協議会	市民相談室

7月15日



今が食べごろ、来て良かった!

雨の中300人が
大谷で「土の日」開かれる

農作物の収穫を楽しむ、農家の人たちが交流を深める「土の日」

が、六月三日、大谷の大家政夫さん(農業、53歳)のハウスで開かれ、トマトの収穫が行われた。美味は台風より強いですよ」といった声が聞かれた。

当日は台風の影響であいにくの豪雨だったが、それでも会場には三百人が訪れた。

ハウス内では、雨具を片手にトマトをもぎ取る常連が目立ち、よも熟した新鮮なトマトを自由に選べるのができて、しかも安いので、台風くらいは休めません。

また会場周辺で開かれた「三三青空市」でも、キュウリやナス、トウモロコシなどが売られ、切れない、土の日の定番ぶりを見せた一日だった。

暑い夏に花火

夏の夜の風物詩、楽しい花火。でも、ちょっとした不注意で大きな事故も生じます。花火をするときは、消火用の水ハケツを用意し、場所、風向き、火の取り扱いにも十分注意して楽しいひとときを過ごしてください。



市消防操法大会



7月28日(日)午前7時45分から今泉中学校校庭で(雨天決行)。市内15分団が操法演技を披露します。ご声援ください。

生きた参考資料

図書館にアユの水槽を展示

アユを見て清涼感を味わってほしい。市内の観光資源である相模川のアユを多く市民のみなさんに知ってもらうため、昭和五十七年から市役所左隣ロビーにアユの入った水槽を展示していたが、より多くの人が、特に夏休み中の児童たちに見てもらうため今年四月にオープンした図書館に、このほど展示場所を移した。

縦四十五センチ、横百二十センチ、高さ六十センチの水槽の

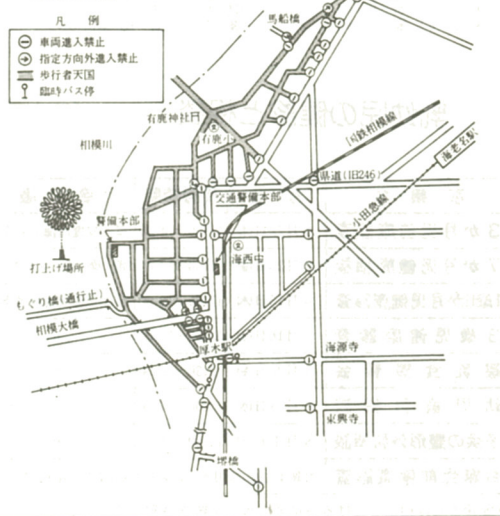


水槽のアユは子供たちの人気者に

中には岡部好直さん(相模川第二漁協海老名支部長、54歳)が提供してくれた体長十二センチのアユ二十二匹が元気泳ぎまわっている。中にはアユの習性を図書館で調べる子もいて、生きた参考書としても役立つようだ。

厚木站まつり(花火大会)開催に伴う交通規制図

下記のとおり交通規制をいたします。
昭和60年8月3日(土)
午後3時から午後10時まで
(雨天・強風の場合順延)
○周辺道路は混雑しますので電車でバスをご利用ください。
●駐車場がありませんので車のご来場はご遠慮ください。



海老名 水道工事

水道敷設工事を請け負った水野組の飯場には、厚さ六センチもある矢板が床板代りに並べられていた。そして壁根には垂釣ひき鉄板が、横桎にしか打ちつけてあったが、裏板がないため、朝晩は霧がぼたぼたと落ち、日中は天火のように温度が上がるかと思われ、夜明けには床裏の中にある程高温

第18話

水道工事哀話

この人は、力仕事はほとんどできず、帳面つけや事務関係の仕事をしていたらしい。筆を持たせると非凡の筆勢で、「水野組事務所」という看板もこの人が書いたものだった。

その後千葉さんは目に見えて衰え、やがて床につくようになってしまったが、近所に就いてよい

お婆さんがいて、気の毒がってよくめんどろを見ていた。その年の暮、ほかの人たちはそれぞれ故郷へも帰ったものか、千葉さんは、見舞うくれたお婆さんに、「二の腕をまわって見せて。初め女の顔の刺青(いれずみ)かと思つたら、殺若(はん)にや面をかかされたまな恐ろしい女の顔を



小島さんと横須賀海軍水道の標識。山の形をしたのがイカリを表わす。

と千葉某地所の番地と記名を書いた和紙の帳面を出した。そして私の腫れのは人面疽(じんめんじゅ)という悪性のもので、ひどい怨(おん)念(ねん)がうつした形になってあらわれのたそうです。

と自分の過去をほつりほつりと語つたのであつた。以下はそのお

をしたら腫(は)れもので、ぞつとしてしまつたといふことである。暮もつまつたある日、お粥(かゆ)と梅干しを運んでやると「いろいろお世話になりましたが、私ももう長いことないと思うので、もし死んだらこゝへ連絡してください」

「千葉生まれの人だといふので、まわりが千葉さんと呼んでいましが、本名は別々にあります。裕福な家庭の息子と育ちますが、東京の大学へ進んで下宿していた時、水商売の女とねんごろになり、家族や先輩、恩師などから別れるように厳しく注意され、心中を決意したそうです。先に女を殺しましたが、急に恐ろしくなつてそこを飛び出し、行方不明になりました。そして殺人犯人としての追跡を恐れ、各地を転々とする土の仲間になつて逃げ歩いたのですが、その学識と教養を買われて水野組に入り、飯場と共に流れ流

れて大谷まで来てしまつたのだそうです。

人目は逃れても、殺した女の執念からは逃げ切れず、つきまわられてどうしよう人面疽(じんめんじゅ)になっています。夜中には断末魔(だんまご)の音が耳元で聞こえて眠れず、その度に激しい痛みが体中を走り、のたうちまわつて苦しんだそうです。

年を越した松の内に、軟かく煮た雑煮を持って行つてやたら、煎餅(せんべい)ふんどしの中で、大小便と共に流りついて死んでいられました。

事務所の人に連絡して、自筆した当を先へ電報を打つたら、立派な服装をした人たちが多勢死体を引き取りに来たので、近所の人たちも組の人も驚いてしまいました。

地元にある水道工事にまわる哀話であるが、この千葉といふ人がいなければ、貴重な資料の木製出土品は、あるいは目をみみずしにしまつたかも知れない。

(大谷の小島直司氏提供)